

## 【随筆】

### 独立への道－専業技術士の勧め

佐鳥聡夫（36歳）

大岡山を巣立って以来 27 年に及んだサラリーマン生活に別れを告げ、昨年暮、専業技術士（自営コンサルタント）として独立しました。幸い結果は大成功。同じようなコースを考えておられる会員諸兄がおられるかと思ひ筆をとった次第です。

#### 脱サラの動機

私が定年を待たず脱サラに踏み切った動機はある年の人事異動です。卒業と同時に大手工業計器メーカーに就職した私は希望どおり技術部門配属となり、製品開発を任されたり、提携先の米国企業に出向したり、忙しく楽しい毎日を送っていました。そして、いつしか 40 台になったある日突然営業へ転属を命じられたのです。その時私は初めて社内での自分の地位と将来の見通しを真剣に考えました。そして自分の将来は自分で決めようと思ひ立ったのです。

#### 独立への準備

脱サラするからには何を始めてもよい訳ですが、やはり大岡山以来の専門知識を少しは役立てないと世間に申し訳ありません。そこで、これまで蓄積したノウハウを活用できる技術コンサルタントを開業することにしました。技術コンサルタント開業には何の資格もありませんが、やはり世間に信用してもらうには国家資格があると便利です。それで、技術士の試験を受けました。

私の専門である計測は電気部門と機械部門にあるので、2 年続けて受験し両部門の資

格を取りました。開業に備えての人脈作りも機会ある度に積極的に行いました。ところがいざ開業しようと計画していた年に勤め先の会社が競合相手と合併してしまったのです。

辞めるにはちょうどよい機会だったので、これも何かの縁と踏みとどまり、米国市場への製品拡販やヨーロッパ支店への出向などを経験しました。その間新しい業務知識を懸命に仕入れたのは言うまでもありません。お蔭で業務の範囲が技術に留まらず海外マーケティングにまで広がることになりました。

#### 技術士稼業の楽しさ

開業してみると幸い次々と顧客ができ忙しい毎日を送っています。これは会社在职中に知り合った皆様方の応援のお蔭で、深く感謝しております。仕事の種類は技術指導から市場調査まで多岐に渡っています。海外業務もかなりあります。自分が不得手な仕事まで引き受けるのは間違いですが、あまり専門分野を限定しても商売になりません。得意な分野に隣接した業務も手掛け少しずつ間口を広げているところです。

現在私は一人で仕事をしているので数社の仕事が重なり猛烈に忙しくなるときもあります。しかし、仕事を断る自由がこちらにあると思えば忙しさもさほど苦になりません。深夜まで仕事をした翌日、昼まで寝ていても誰も文句は言わないし、好きな日に休んでもよいのです。

自宅を事務所にしたので朝晩の通勤ラッシュとは無縁になりました。会社勤めの時は

通勤に往復 4 時間掛かりましたから、年間 180 日適うとすれば年 720 時間の節約です。一日の実働を 8 時間とすれば一年に 90 日分の時間を儲けた勘定になります。

自営業には完年の不安がありません。個人でやれば気を使う上司や部下もいないので、精神的ストレスは全くありません。そのお蔭か在職中高かった血圧が下がり体調はきわめて良好です。

一昔前にくらべ今は個人技術士がやり易い世の中になりました。企業の意識が変わり無形の商品に金を払うようになったからです。昔はいくら技術相談をしても菓子折や洋酒が溜まるばかりで、金にならぬ時代もあったそうです。もう一つの変化は OA 機器の進歩です。30 万円足らずでワープロ、コピー、ファックスの三種の神器が揃うのですから有り難いことです。これで大企業並の文書を作り、世界中と交信することができるのです。10 年前これだけの OA 機器を買ったら 300 万円でも足りなかったでしょう。

#### 技術士を志す会員諸兄への助言

これまで専業技術士のメリットを書きましたが、自営業には当然危険も伴います。私も収入の保証は何もありません。事実低所得の専業技術士もいるそうですし、この道で成功するには努力と運が必要なようです。しかし、会社で役員になるのもある程度運であることを思えば、自営の道に賭けてもよいではありませんか。むしろ、自営の方が成功に占める努力の割合が高いともいえます。安全コースは定年後の開業ですが、ハイリスク・ハイリターンという世間の常識はここでも通用するようです。

この職業の適性は好奇心と積極性、それに楽天的な性格のように思えます。あまり先の心配をすると自営業など危なくてできません。適性と並んで重要なのは人脈です。人脈作りは一朝一夕にはできないので、常日頃心掛ける必要があります。また何事も前向きに捉える心が大切と思います。今これをお読みになっている方が社内で不遇な立場にあれば、むしろその状態を喜ぶべきではないでしょうか。かつての私もそうでしたが、それが現状打破の原動力になるのです。私の営業配転も今振り返ると、技術以外の世界を学び、独立につながるきっかけを与えてくれたと感謝しております。

この一文をお読みになり、もっと話がお聞きになりたい方はいつでもお気軽にご連絡ください。できる限り皆様のお役に立ちたいと思います。

(蔵前工業会誌 1989 年 12 月号に寄稿)

satori☆ksplz.info (☆は@)